

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き —中小企業動向を中心に—

概況

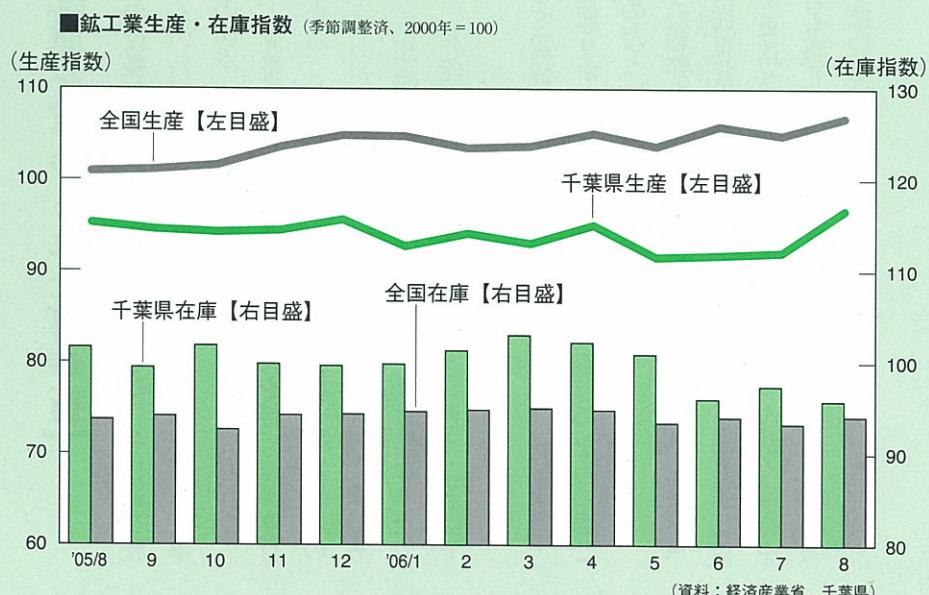
県内経済は、着実に回復を続けておりが、消費が横ばい圏内の動きにとどまるなど、回復の力強さは今ひとつ。

千葉県企業経営動向調査によると、県内企業の7～9月期の業況判断BSI（全産業）は「好転した」とする向きが「悪化した」を三期ぶりに上回った。一方、収益BSI（同）は、原材料高騰による仕入価格の上昇と競争激化による販売価格の伸び悩みなどから、三期連続で「悪化」超となっており、収益の低迷が続いている。

7～9月期の県内小売業の販売動向も、総じて横ばい圏内の動きを続けている。白物家電や携帯電話などの一部耐久財は堅調ながら、百貨店、コンビニ、自動車販売、家具などの売り上げは弱含みの動きとなっている。

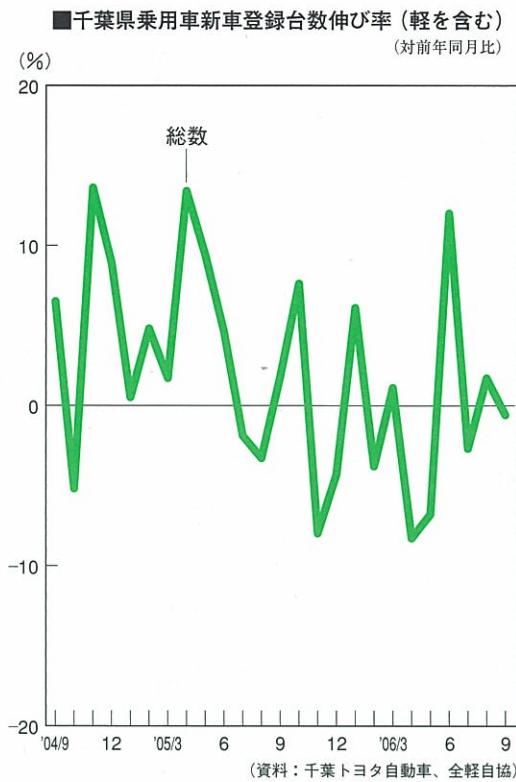
同期間の新設住宅着工戸数は、前年比+五・八%と二期連続で増加した。2006年地価調査（基準日：06年7月1日）によると、県内の調査地点の中で、商業地の三五・六%、住宅地の二五・九%の地点で前年比上昇した。つくばエクスプレス（TX）沿線の開発が進む流山地域では、柏・松戸地域の一・三～一・七倍の高値での土地取引が見られる。また、一時は地価大幅下落、地域衰退のイメージが強かつた木更津地域でも、ここへきて、注文住宅の売れ行きが好調なほか、一〇〇〇～一五〇〇万円の低価格中古住宅物件が飛びるように売れるなど、県内都市部を中心地価上昇や住宅販売の動きが活発化している。一方、公共工事請負金額は二期連続で前年を下回った。

千葉県工業生産指数は、一般機械工業、化学工業などを中心に四か月連続で上昇した（6月九一・八～7月九二・一～8月九六・七）。06年度設備投資計画額は、全産業で前年実績を▲一・四%下回ったが、期初計画比では+十二・五%増加した。特に製造業中小企業では期初計画比+四七・九%の大幅上方修正となっている（千葉県企業経営動向調査）。雇用面では、千葉県の7～9月中旬の有効求人倍率（季調値）は〇・九一倍と四期ぶりにわずかながら悪化したが、企業では引き続き雇用不足感を訴える先が多い。



消費関連

県内小売業の販売動向は、総じて横ばい圏内の動きを続けているが、回復に向けた力強さは見られない。



月期の売り上げは三期ぶりに前年を上回ったが、改装オープンした一部百貨店を除くベースでは前年割れとなつてはいる。コンビニ売上は競合激化から前年割れが続いた。旅行販売では、景気回復を映じて法人需要は上向いたが、個人向けが足を引つ張り、全体では前年実績

た。南房総地域の宿泊施設では売上増が前年比微増、外食産業では横ばいとする先が多かった。

一方、スーパーの販売額は、8月まで三か月連続で前年を上回った。ホームセンターでは冷房・家事家電など耐久財の販売好調などから前年を上回った。携帯電話販売は、相次ぐ新型機種の投入もあって前年比増加した。
(関)

閑

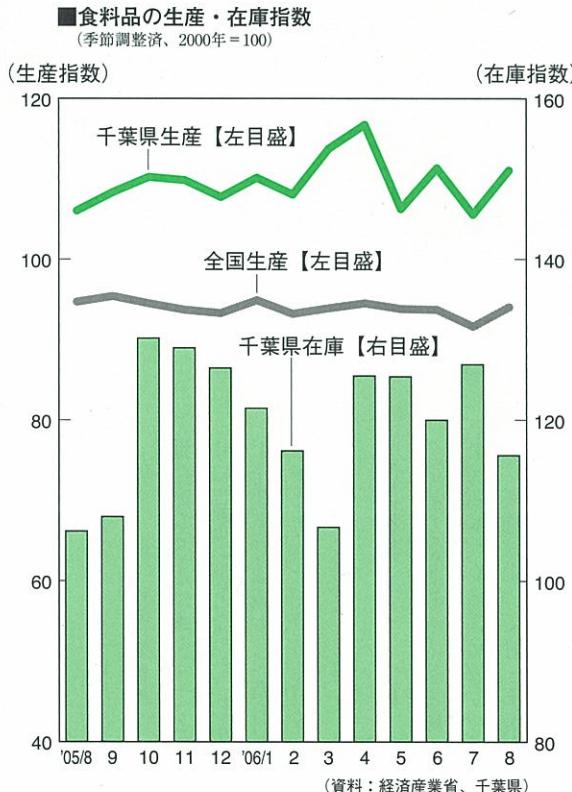
食料品

県内食料品メーカーの7～9月期の生産BSIは前回比▲四・八悪化し、三期連続で「減少」超となつた（06年1～3月期・▲五・二→4～6月期・▲四・九→7～9月期・▲九・七）。収益BSIも▲十五・六と同▲九・五悪化し、三期連続「悪化」超となつた

販売価格面の動きでは、ハム・ソーセージなどでは、業界大手企業が価格を据え置きつつ内容量を
五・六)。

また、全国的な飲酒運転による死亡事故の影響で、酒類の飲食店向け販売が減少し、県内の清酒・ビール製造業には逆風となつてゐる。

(貢谷)



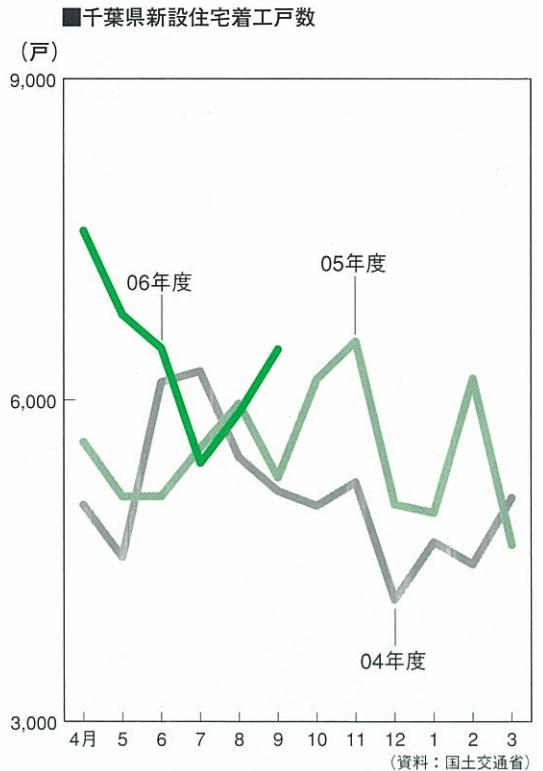
販売価格面の動きでは、ハム・ソーセージなどでは、業界大手企業が価格を据え置きつつ内容量を
五・六)。

また、全国的な飲酒運転による死亡事故の影響で、酒類の飲食店向け販売が減少し、県内の清酒・ビール製造業には逆風となつてゐる。

減らすなど実質値上げを実施した。食用油では業界トップが値上げ方針を打ちだすなど、収益改善を目指した価格上昇の動きも見られるが、少子高齢化などから食料消費が弱含む中、販売単価の値上げには至っていない。県内食料品メーカーでは、仕入価格の上昇や燃料費高騰分を価格転嫁できず、収益悪化が続いている。

住宅・建設

06年7～9月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+五・八%と四期連続で前年実績を上回った。



都心の地価上昇を映じて県内地価の割安感が強まり、千葉市中央区や流山市を中心にマンション着工が好調（分譲マンション・同+二七・〇%）なほか、持ち家（注文住宅）も同+六・九%と二期連続で前年を上回った。

同期間の県内公共工事請負金額は、前年同期比▲六・三%と三期連続で減少した。発注者別に見る。

建設需要は、公共部門の落ち込みが激しく、公共工事依存度の高い企業の経営は厳しさが強まってい

る。

（菅谷）

と、国（前年同期比▲二九・七%）、県（同▲十五・九%）などが大きく減少した。

県内建設業の倒産件数（06年7～9月期）は三三件と前年同期比+三一・〇%増加した。県内の

建設需要は、

公共部門の落ち込み

が激しく、公共工事依存度の高い

企業の経営は厳しさが強まってい

る。

（菅谷）

機械

県内電気機械メーカーの7～9月期の生産BSIは、十八・二と四期連続で二ケタのプラスが続き、10～12月期の先行き生産BSIも十八・二と高水準で横ばい見込み。

生産好調の背景には、年末商戦に向けた薄型テレビ、携帯電話、ゲーム機器、パソコン周辺機器向けなどの需要の強まりがある。

10～12月期の生産見通しは、07年度の新製品向けに増加が見込めるとの声がある一方、年末商戦を前に

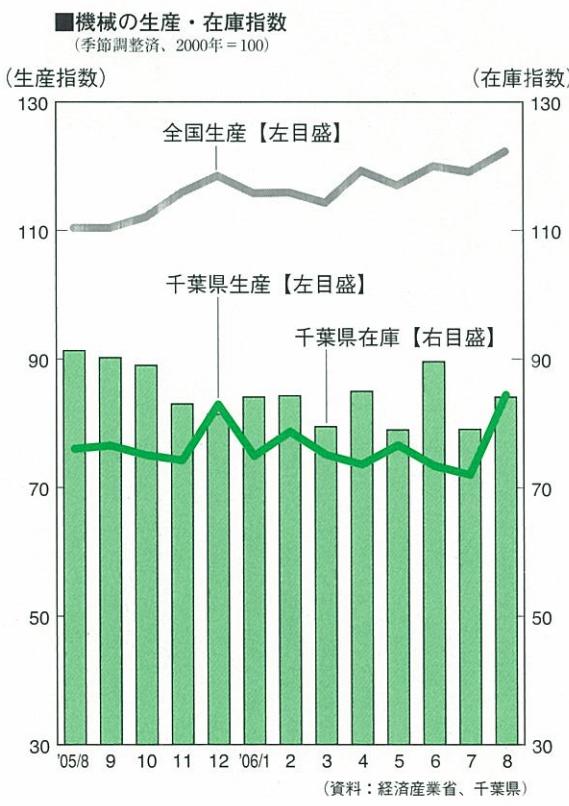
新たな問題が生じている。（菅谷）

在庫過多となり減少するとの懐重な見方もあり、不透明な状況。

県内一般・精密機械の7～9月期生産BSIは▲三・二と二期ぶりに「減少」超となつた。しかし「前年同期比では減少したが引き続き水準は高い」との回答が多く見られ、生産は底堅く推移している。

県内機械メーカーでは、大企業の旺盛な設備投資意欲を映して繁忙が続いている先が多い。もつとも、業種によって好・不況が分かれているほか、発注先企業の業況に左右される面も大きいため、一部の企業では国内生産が落ち込み、海外市場へ活路を求める向きも見られた。

（酒井）



ITソフト

情報サービス業（全国）の売り上げは、06年8月まで八か月連続で前年実績を上回った（前年同月比・6月十五・一%、7月十三・五%、8月十五・一%）。

金融機関のシステム開発の受注が引き続き好調なほか、流通業でもシステム投資が増加し、受注環境は好転している。今後も地方自治体で、従来の大型ホストコンピューターから、オープンソースソフト（リナックスなど）利用へと切り替える向きや、税金や社会保

陥料の収納率改善の方策として、公金のクレジットカード収

納の導入が進むため受注が増加す

ると予想する向きもある。

一方、県内IT企業では技術者不足によ

り受注を増やせないジレンマに陥

っている。大手システム会社のオ

フショアリング（海外企業への開

発委託）により受注単価の上昇が

抑えられ、収益も伸び悩みの状況

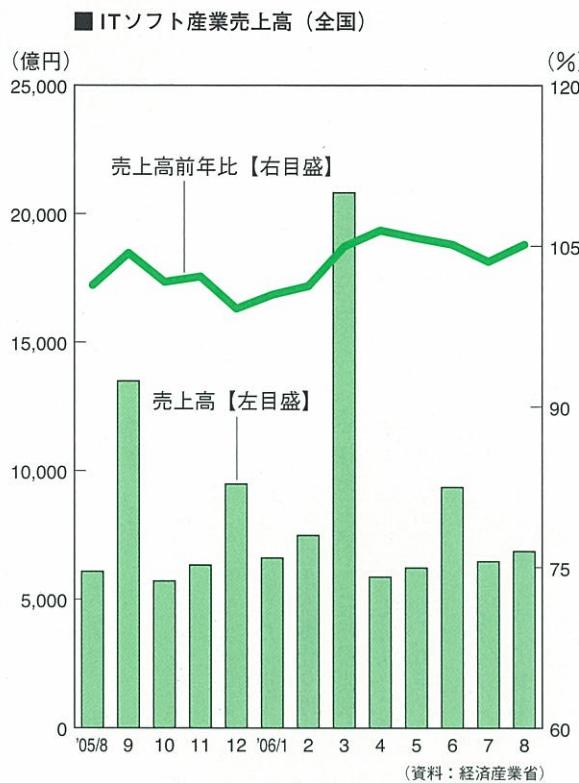
で、技術者確保や技術力強化など

による受注増加が県内IT企業の

最大の課題となつており、求人倍

率の低い地方に事務所を開設する

などの動きも見られる。（菅谷）



窯業・土石

しているマンション建設に加え、物流・宿泊施設、市川駅南口再開発など大口出荷が続いている。

千葉中央協同組合（千葉・市原・四街道など）では、県警本部

の建て替え、千葉市雨水ポンプ場、千葉セントラルタワーなど大

口の出荷が重なり、7～9月期の

出荷量は前年同期比+五三・〇%

の大増となつた。

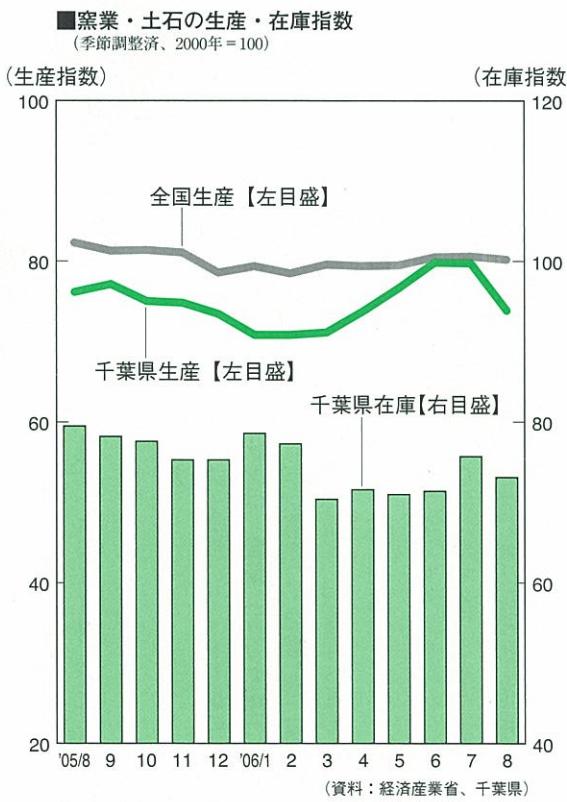
千葉北部協同組合（柏・松戸・野田など）の7～9月期の出荷量は、前年同期比▲十一・三%減少

したもの、前期にらっぽーと柏

の葉など大型物件の出荷が集中し

たことから06年度上期合計では

同+〇・九%増加した。（菅谷）



鉄鋼 石油・化学

回復には至っていない。

(菅谷)

石油・化学

06年7～9月期の県内石油・化

農業・漁業

菜産出額は一六五三億円と、北海道（二六四五億円）を抜き、再び全国一位となつた。

(酒井)

漁業

銚子漁港の7～9月期の水揚げ

状況は、数量（五万七四三二t..

06年7～9月期の県内高炉メー
カ一二社（新日本製鐵、JFEス
チール）の粗鋼生産量は三五三・
二万t（前年同期比▲○・四%）

と、ほぼ前年並みの高水準で推移
した。

一方、県内の鉄鋼・非鉄金属メ
ーカーの生産BSIは、二期連続
の「減少」超となつた（06年1～
3月期◆○・○→4～6月期◆
四・二→7～9月期◆三・六）。
先行き不透明感からエンドユーニ
ーの在庫意欲が乏しく、本格的な

下げを主張する最終需要家との間
で、価格交渉が従来以上に激化し
た。この背景には、ドバイ原油価
格が7月に史上最高となる七二ド
ル台に突入後、8月以降は値を下
げ、9月にはおよそ半年ぶりとな
る五〇ドル台にまで下落するなど
乱高下したことがある。県内の加
工メーカーでは、今までの販売価
格未転嫁分もあり、必ず値上げす
ると強気の声もある。

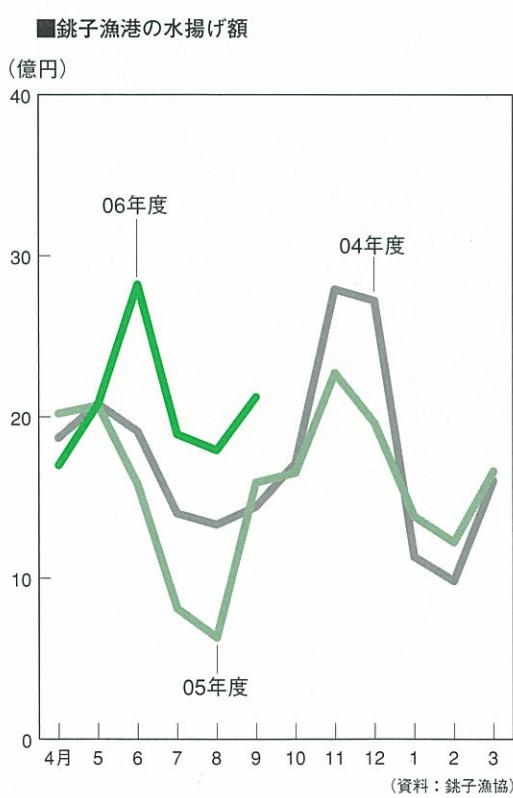
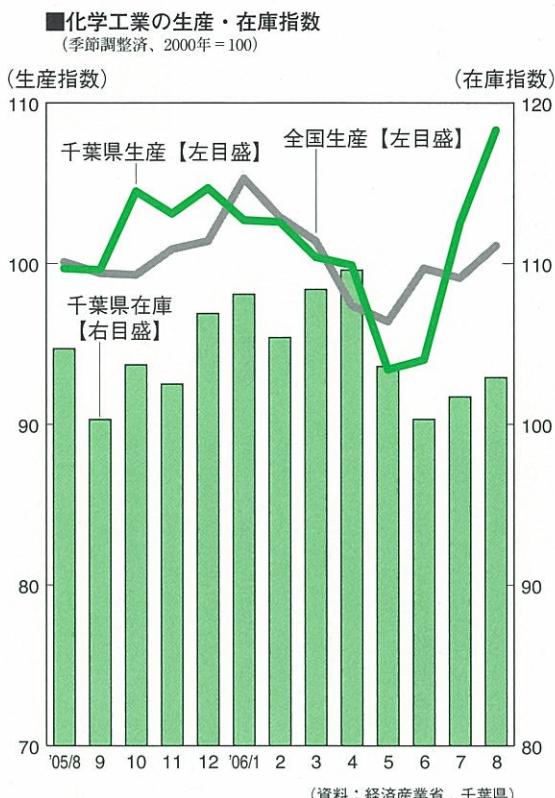
(酒井)

05年の千葉県の農業産出額（概
算、以下同じ）は四一六一億円と
前年比▲一・五%減少し、94年以
来続いていた第二位の座を明け渡
し、第四位に転落した（一位は北
海道・一兆六六三億円）。米国產
牛肉の輸入禁止措置により、第二
位の鹿児島県（四一六八億円、前
年比+○・六%）、第三位の茨城
県（四一六一億円、同▲○・一%）
では肉用牛や肉用豚の需要が高ま
つたが、千葉県では生産量が減少
したことが大きな要因。一方、野

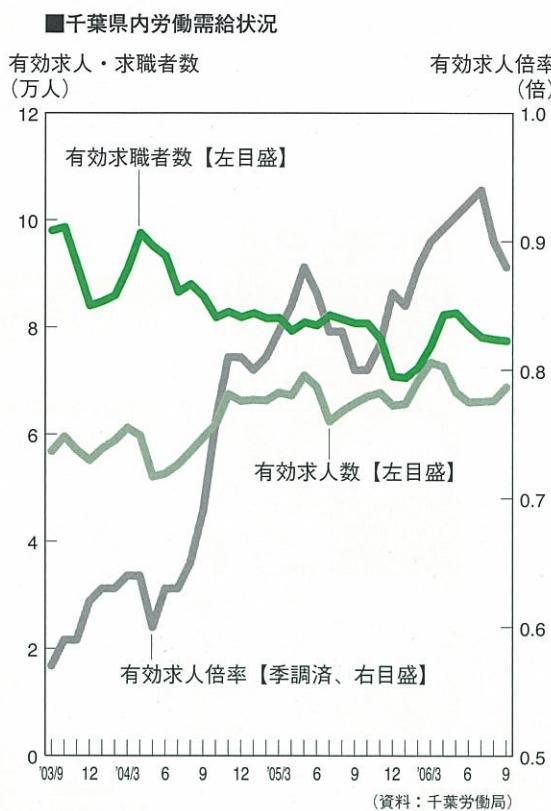
活気づいている。

勝浦漁港の7～9月期の水揚げ
状況は、数量（三六〇二t..同
二・四倍）、金額（六・九億円..
同+九四・九%）とも大幅に前年
を上回った。

(菅谷)



雇用



千葉県の7～9月期の有効求人倍率(季調済)は、○・九一倍と四期ぶりに悪化した(05年10～12月期・○・八三倍→06年1～3月期・○・八七倍→4～6月期・○・九二倍)。雇用形態別には、一般は○・七三倍と前期比▲○・二ポイント悪化、パートは一・四二倍と同▲○・○一ポイント悪化した。

有効求人数(季調済、月平均)は、前期比▲二・一%と三期ぶりに減少した。一方、有効求職者数

は景気回復による失業者減少などの影響から同▲○・五%と十七期連続で減少した。

新規求人數の動きを見ると、燃

料費高騰やタクシー会社の倒産などから運輸業が減少したものの、外食産業では、所得環境の好転により業況が回復した先で接客・給仕が増加した。

地域別では、館山、佐原などで介護施設からの求人が増加しており、新規・有効とも求人倍率は県平均を上回っている。柏地域では、11月にららぽーと柏の葉が開業予定となっており、数百人規模の新規求人が予定されている。

(菅谷)

企業経営動向調査(BSI)



06年7～9月期の県内企業の業況判断実績BSI(全産業)は○・六と前回(4～6月期)比+三・五改善し、三期ぶりに「好転」超となつた。小売、建設など全十六業種中十二業種で改善した。先行き(10～12月期)も実績比+○・三改善見込み。

収益BSI(同)は▲七・〇と前回比+○・六改善したが、水準は三期連続で「悪化」超となつた。先行きBSIは▲四・七と実績比+十二・三改善見込み。

販売価格BSI(同)は▲○・三(前回比+二・三)と三期連続で改善した。先行きBSIは○・八と実績比+一・一改善し、91年10～12月期以来の「上昇」超となる見込み。

仕入価格BSI(同)は二・一・四となつた。製造業、非製造業とも全業種、全規模で「上昇」超となつており、その水準も高い。

06年度設備投資計画額(同)は、05年度実績比▲一・四%減少した。製造業中小企業では期初計画比+四七・九%と大幅な上方修正となつた。

雇用BSI(同)は九期連続で「不足」超となつた。

(関)

販売価格BSI(同)は▲○・三(前回比+二・三)と三期連続で改善した。先行きBSIは○・八と実績比+一・一改善し、91年10～12月期以来の「上昇」超となつた。

仕入価格BSI(同)は二・一・四となつた。製造業、非製造業とも全業種、全規模で「上昇」超となつており、その水準も高い。

06年度設備投資計画額(同)は、05年度実績比▲一・四%減少した。製造業中小企業では期初計画比+四七・九%と大幅な上方修正となつた。

雇用BSI(同)は九期連続で「不足」超となつた。